

Asia Indicators

発表日: 2024 年 7 月 19 日 (金)

インド、食料インフレ再燃でインフレ率は加速 (Asia Weekly(7/12~7/19))

~オーストラリアの雇用は好悪双方の材料が混在も、労働市場への参加意欲は依然として旺盛~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

| 発表日 | 指標、イベントなど | 結果 | コンセンサス | 前回 |
|------------|------------------------------|--------|--------|--------|
| 7/12(金) | (インド) 6 月消費者物価(前年比) | +5.08% | +4.80% | +4.80% |
| | 5 月鉱工業生産(前年比) | +5.9% | +4.9% | +5.0% |
| 7/15(月) | (中国) 4-6 月実質 GDP(前年比) | +4.7% | +5.1% | +5.3% |
| | 6 月鉱工業生産(前年比) | +5.3% | +5.0% | +5.6% |
| | 6 月小売売上高(前年比) | +2.0% | +3.3% | +3.7% |
| | 6 月固定資産投資(年初来前年比) | +3.9% | +3.9% | +4.0% |
| | (インドネシア) 6 月輸出(前年比) | +1.17% | +5.46% | +2.85% |
| | 6 月輸入(前年比) | +7.58% | +6.55% | ▲8.84% |
| | (フィリピン) 5 月海外送金(前年比) | +3.6% | -- | +3.1% |
| | (インド) 6 月輸出(前年比) | +2.6% | -- | +9.1% |
| 6 月輸入(前年比) | +5.0% | -- | +7.7% | |
| 7/17(水) | (ニュージーランド) 4-6 月消費者物価(前年比) | +3.3% | +3.4% | +4.0% |
| | (シンガポール) 6 月非石油輸出(前年比) | ▲8.7% | ▲0.4% | ▲0.7% |
| | (インドネシア) 金融政策委員会(政策金利) | 6.25% | 6.25% | 6.25% |
| 7/18(木) | (オーストラリア) 6 月失業率(季調済) | 4.1% | 4.0% | 4.0% |
| | (マレーシア) 6 月輸出(前年比) | +1.7% | +4.6% | +7.1% |
| | 6 月輸入(前年比) | +17.8% | +15.5% | +13.4% |
| | (香港) 6 月失業率(季調済) | 3.0% | -- | 3.0% |
| 7/19(金) | (マレーシア) 4-6 月実質 GDP(前年比・速報値) | +5.8% | -- | +4.2% |

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【インド】~生鮮品をはじめとする食料品価格での上昇を受けて、インフレ率は4ヶ月ぶりに5%を上回る伸びに~

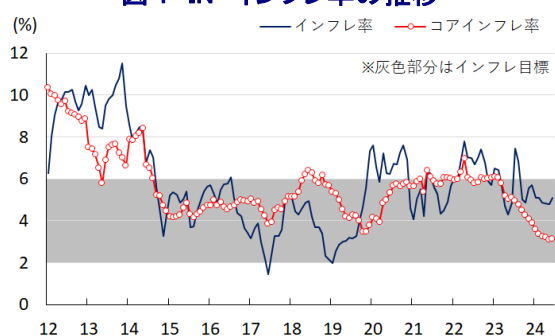
12日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+5.08%となり、前月(同+4.80%)から加速して4ヶ月ぶりに5%を上回る伸びとなるも、引き続き中銀目標(4±2%)の範囲内で推移している。前月比も+1.33%と前月(同+0.54%)から上昇ペースが加速しており、昨年後半以降の国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格は落ち着いた動きをみせる一方、ここ数ヶ月は落ち着きを取り戻す動きをみせてきた食料品価格は生鮮品を中心に上昇の動きを強めており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコア

インフレ率は前年同月比+3.14%と前月（同+3.12%）からわずかながら伸びが加速している。前月比は+0.11%と前月（同+0.22%）から上昇ペースが鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇一服を反映して輸送コストも落ち着きを取り戻しているほか、金融市場における通貨ルーピー相場の安定も重なり財価格は落ち着いた推移をみせているほか、住宅価格の下振れの動きが物価の重石となる動きがみられる一方、サービス物価を中心に上昇の動きが続くなどインフレ圧力がくすぶる状況は変わっていない。

また、同日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+5.9%となり、前月（同+5.0%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。鉱業部門のみならず、製造業部門においても生産拡大の動きが確認されているほか、製造業のなかでも化学関連部門など一部を除いてほぼすべての分野で生産が拡大している様子がうかがえる。これまで比較的堅調な動きが続いた消費財関連では耐久消費財、非耐久消費財問わず全般的に生産が拡大しているほか、これまで調整の動きをみせてきた中間財や資本財関連の生産も底入れに転じるなど、全般的に生産活動が活発化している。

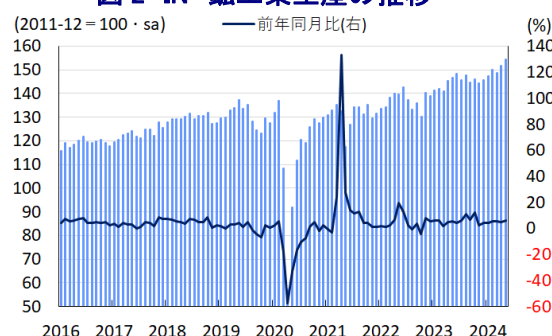
15日に発表された6月の輸出額は前年同月比+2.6%となり、前月（同+9.1%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、製造業関連の輸出が下振れするとともに、国際原油価格の頭打ちの動きを反映して石油製品関連の輸出額にも下押し圧力が掛かっているほか、宝飾品関連や農産品関連など幅広い財で輸出が頭打ちの動きを強めるなど全般的に下振れしている。一方の輸入額は前年同月比+5.0%となり、前月（同+7.7%）から伸びが鈍化している。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ている。財別では、電気機械関連の輸入に底堅い動きがみられるものの、国際原油価格の頭打ちの動きを反映して原油関連の輸入額が大きく下振れするとともに、金をはじめとする宝飾品関連の輸入や化学製品関連の輸入も軒並み下振れするなど、輸出入双方で頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。結果、貿易収支は▲209.80億ドルと前月（▲237.80億ドル）から赤字幅が縮小している。

図1 IN インフレ率の推移



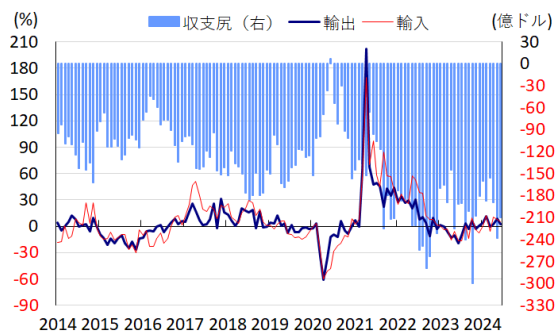
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季調値は当社試算

図3 IN 貿易動向の推移

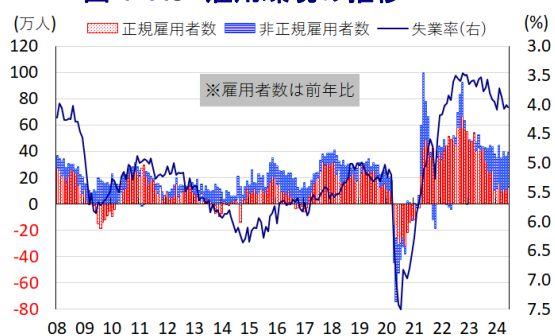


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[オーストラリア]～雇用を取り巻く状況は好悪混在も、労働市場への参加意欲は高止まりする展開が続く～

18日に発表された6月の失業率(季調済)は4.1%となり、前月(4.0%)から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+1.0万人と前月(同▲0.9万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めており、雇用形態別でも非正規雇用に対する求職者数(同+0.7万人)のみならず、正規雇用に対する求職者数(同+0.3万人)もともに拡大している。一方の雇用者数は前月比+5.0万人と前月(同+3.9万人)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めているほか、雇用形態別でも非正規雇用者数(同+0.7万人)のみならず、正規雇用者数(同+4.3万人)もともに拡大の動きをけん引している様子がうかがえる。地域別では、資源関連産業の割合が高い西オーストラリア州で雇用底入れの動きに一服感が出ているものの、最大都市のシドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州のほか、ヴィクトリア州やクイーンズランド州など大都市を擁する地域を中心に底堅い動きがみられる。さらに、雇用環境の堅調さを反映して労働力人口は前月比+6.0万人と前月(同+3.0万人)から6ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きが続くなど労働市場への参入意欲は旺盛な推移をみせている。こうした動きを反映して労働参加率は66.9%と前月(66.8%)から0.1pt上昇しており、過去最高水準で推移する展開が続いている。

図4 AU 雇用環境の推移



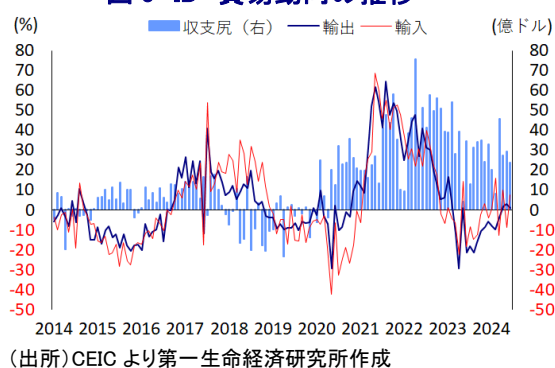
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～国際原油価格の頭打ちに加え、幅広く輸出は頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる～

15日に発表された6月の輸出額は前年同月比+1.17%となり、前月(同+2.85%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動

きをみせているほか、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの兆候を強めている様子が見え始める。財別では、農産品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、国際原油価格の頭打ちを反映して原油や石油製品、天然ガス関連の輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、鉱物資源関連の輸出も同様に下振れするとともに、製造業関連の輸出も頭打ちの動きを強めるなど、全般的に力強さを欠く動きが続いている。一方の輸入額は前年同月比+7.58%となり、前月（同▲8.84%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じたことと試算されるものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に底堅い動きをみせている。財別では、国際原油価格の頭打ちにも拘らず原油や石油製品関連の輸入は堅調さが続く一方、鉱物資源関連以外の輸入の鈍化が輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は+23.90億ドルと前月（+29.25億ドル）から黒字幅が縮小している。

図5 ID 貿易動向の推移



[マレーシア]～商品市況の頭打ちの動きを反映して、輸出入ともに一進一退の上に頭打ちの動きを強める展開～

18日に発表された6月の輸出額は前年同月比+1.7%となり、前月（同+7.1%）から伸びが鈍化している。前月比も▲14.2%と前月（同+23.2%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるものの、ASEAN周辺国のほか、米国向けや欧州向けなどで幅広く下振れする動きが確認されており、輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+17.8%となり、前月（同+13.4%）から伸びが加速している。しかし、前月比は▲8.8%と前月（同+15.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して中間財や資本財関連の輸入に下押し圧力が掛かるとともに、消費財関連の輸入も鈍化するなど全般的に頭打ちの動きを強めている。結果、貿易収支は+142.91億リンギと前月（+99.55億リンギ）から黒字幅が拡大している。

19日に発表された4-6月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+5.8%となり、前期（同+4.2%）から加速して6四半期ぶりの伸びとなっている。なお、速報値段階において統計局は季節調整値を公表していないものの、仮に前年比ベースの伸び率を援用すれば、前期比年率ベースの成長率は+11.74%と前期（同+5.86%）から2四半期連続のプラス成長で推移するなど、足下の景気は底入れの動きを強めていると捉えられる。分野別の生産動向を巡っては、国際商品市況の調整の動きが重石となる

形で鉱業部門の生産は下振れする展開が続く一方、異常気象による悪影響の一巡を受けて農林漁業関連の生産が拡大に転じているほか、外需の堅調さを追い風に製造業の生産も底入れの動きを強めているほか、公共投資の進捗の動きなどを反映して建設業の生産も旺盛な伸びが続いている。さらに、外国人来訪者数の堅調な流入を追い風にサービス業の生産も拡大しており、足下の景気は外需と公的需要に支えられている様子うかがえる。

図6 MY 貿易動向の推移

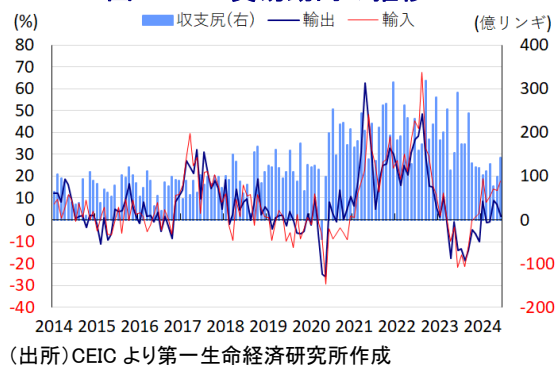


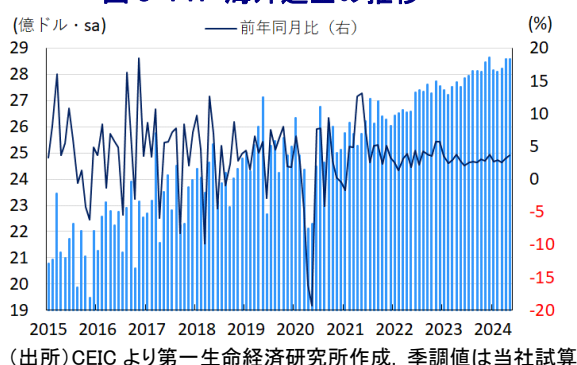
図7 MY 実質GDP(季調値)と成長率(前年比)の推移



[フィリピン]～米国や欧州を中心に海外送金に底堅さ、ペソ安も追い風に家計消費など内需の下支えに期待～

15日に発表された5月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+3.6%となり、前月(同+3.1%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比はほぼ横這いで推移しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。国・地域別では、全体の4割近くを占める米国からの流入は雇用環境の底堅さを反映して堅調な推移をみせているほか、全体の1割強を占める欧州からの流入も比較的堅調な動きをみせている一方、全体の2割弱を占める中東や4割弱を占めるアジアからの流入は対照的に頭打ちの動きを強めており、国・地域ごとに跛行色が生じている様子うかがえる。なお、金融市場における通貨ペソ安を反映してペソ建て換算した額が押し上げられており、家計消費をはじめとする内需の下支えに資することが期待される。

図8 PH 海外送金の推移

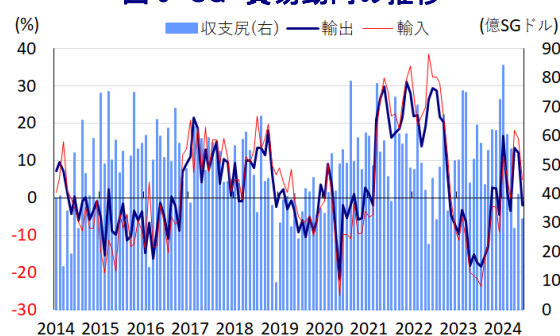


[シンガポール]～国際原油価格の頭打ちも影響して輸出入双方で頭打ちの動きが強まる様子うかがえる～

17日に発表された6月の非石油輸出額は前年同月比▲8.7%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲0.7%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲0.41%と前月(同▲0.74%)から2ヶ月連続で減少しているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせてい

る。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、機械製品関連や化学製品関連など幅広い分野で輸出が頭打ちの動きをみせており、輸出全体の重石となっている。原油関連を併せた総輸出額は前年同月比▲1.9%となり、前月（同+12.0%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲5.1%と前月（同▲2.8%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。国際原油価格の頭打ちの動きが関連輸出の重石となるとともに、輸出全体を大きく下押ししている。一方の輸入額は前年同月比+4.7%となり、前月（同+16.0%）から伸びが鈍化している。前月比も▲3.2%と前月（同▲2.4%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出の頭打ちの動きを反映して機械製品関連の輸入に下押し圧力が掛かっているほか、鉱物資源関連や原油関連など素材・部材に関連する輸入も下振れしている。結果、貿易収支は+31.21億SGドルと前月（+39.70億SGドル）から黒字幅が縮小している。

図9 SG 貿易動向の推移

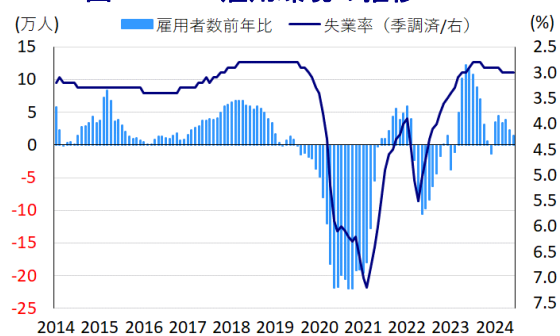


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～失業率は4ヶ月連続の横這いも、雇用のミスマッチ拡大や参入意欲の低下など状況は厳しさを増す～

18日に発表された6月の失業率（季調済）は3.0%となり、前月（3.0%）から4ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比+0.1万人と2ヶ月連続で拡大しているものの、前月（同+0.3万人）からそのペースは鈍化しており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。一方の雇用者数も前年同月比+1.4万人と前月（同+2.3万人）から拡大ペースに鈍化しており、失業者数と同様に底入れの動きに一服感が出ている。分野別では、建設業で堅調な動きが確認されているほか、製造業においても底入れの様子がうかがえる一方、サービス業を中心に幅広い分野で頭打ちの動きが確認されるなど、これまで雇用回復をけん引してきたサービス業を取り巻く環境が厳しさを増している。こうした状況は不完全雇用者数が前年同月比+0.3万人と前月（同+0.0万人）から拡大ペースが加速するなど雇用を巡るミスマッチが拡大しているほか、労働力人口は同+1.6万人と前月（同+2.6万人）から拡大ペースが鈍化するなど労働市場への参入意欲が後退していることに現れている。

図 10 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

